

試験問題を読めない・解けない 受験生の傾向

1、A図を見て、どう思いますか。 <言語能力と受験能力との関係>

① まだ分かっていない「合格に必要な言語能力」の重要性

- 日本人が国家試験を受験するとしてもA図のように、言葉を使う領域が異なっています。 高校三年を卒業しただけでは国家試験合格は難しいために、専門学校で専門知識を習得して、それ相応の国家試験対策の勉強をしてから、受験することが多くの日本人受験者の道です。

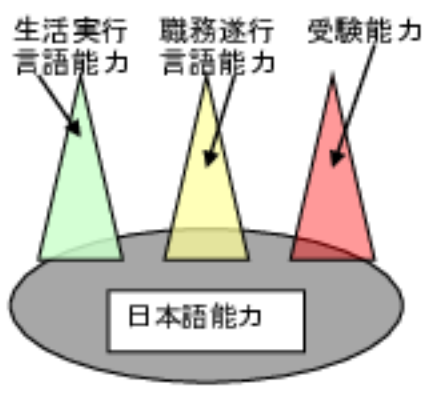
このことを考えると、外国人が国家試験を受験して合格するためには、日本人受験者と同じ位の日本語能力が無ければ、合格は非常に難しいことが分かります。

- しかし、未だに日本人関係者の中では、「基盤となる日本語能力」と「受験能力」の関係を無視して、外国人である受験者に対して、受験能力だけを求める矛盾した考え方が多数あります。

そして、【日本語能力は小学生レベルなのに、国家試験を受験させる状態】が全国で起こっています。 この状態で国試対策を行っても、教育効果が上がらないことは明白です。

A図

<言語能力の分類図>



② 過去問題だけの学習は、言語能力を阻害する

- 外国人受験者に対して、過去問題集を基にした国家試験対策を、事業団をはじめ各施設での日本語教育指導者などが行っていますが、今年の3月に発表された介護では、合格率 39.8%、看護では 10.6%を見れば、非常に低い合格率にとどまっています。
- この最大の原因は、言語能力を無視したマークシート方式の知識の選択技術だけの学習方法をとったからです。 そのため、受験者の言語能力を育てることなく受験させた結果でもあります。

③ マークシート解答でも、絶対必要な「読解能力」

- 受験者にとって、質問文と選択文の文意が読み取れないことは、例えマークシート方式で記号選択をしても、正しい答えを導き出すことができません。 専門知識を日本語で理解していなければ、正しい答えが導き出されないことは、当たり前のことです。 合格率を見れば、試験問題を読み取れない受験者がいかに多かったかを表しています。

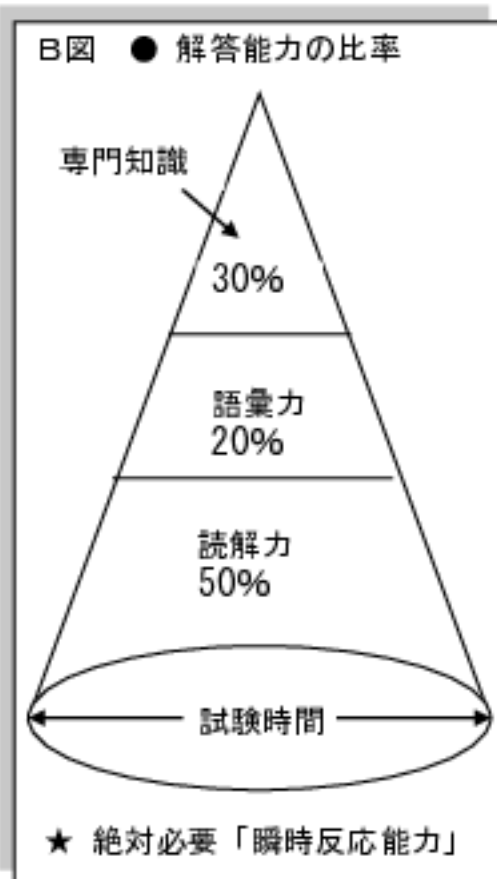
④ 漢字が読めても、知識が無ければ意味が無い

- 試験問題の漢字には振り仮名が振られています。 しかし、それは外国人受験者が漢字を読めないために配慮したものです。 振り仮名付きの漢字を読めたとしても、その意味が理解できなければ試験問題を理解することは不可能です。 即ち、専門知識が伴っていないければ、問題に対する正しい選択ができるものではないことは、当然のことです。

受験対策の段階で、専門知識を日本語で習得できる言語能力こそが、絶対必要な要素です。

- A図の「言語能力の分類図」に基づいた学習方法の考え方で、日本語教育を行えば、日本人と同等程度の能力を養うことができます。 詳細は次のページです。

2、国家試験合格に結びつける能力とは？



①「時間内で全問解答」できる能力は、最低 70%以上必要

- B図の通り、時間内で全問に答えられないことは不合格を表します。「瞬時反応能力」がなく、仮に 60%の解答が全て正解であったとしても、確実な合格には届きません。そのため、日頃から時間内で全てに解答できる「瞬時反応能力」を養うことが重要です。

②「試験問題の読解力と選択文の読解力」が、50%を占める

- 選択文の中から正解文を、記号で選び出す練習だけをしている受験者が多くいます。しかし、質問文や選択文を正しく読解できる力が無ければ、正解文を選択することができません。合格するためには、文に対する読解力が 50%以上なければ不可能です。

③「専門用語の語彙理解」が、最低 20%必要

- 専門用語は漢字熟語で表されており、試験では振り仮名が振られたとしても、その意味が理解できていなければ正解文を選び出すことはできません。専門用語の意味は、文脈の中で理解してこそ、正しい選択文を選ぶことができるのです。

④「正しい専門知識」を日本語で習得すること

- 現場で必要とされる知識は対訳せずに、できるだけ日本語で体得することが、受験者にとっては一番分かりやすい方法です。即ち、実践に必要な技術問題を過去問題から数例取り出して、現場で過去問題を「音読」しながら、正しい技術を計画的に、そして、継続的に行うことが大切です。但し、必ず実践問題を体得させたら、その過去問題を「音読」しなければ、問題に対する意識と問題の位置づけが不明瞭になってしまいますので、このことは最も重要視しなければいけません。

⑤ 試験対策テクニックにこだわらない

- 試験問題の質問文の読解ができない限り、正しい解答文を選択文から選び出すことは、当然できません。当たり前のことながら、質問文の「読解力」があってこそ、太文字書きで表されている「文意判断語」の果たす意味が出てくるものです。そのことに気づかず、選択文の中から例えば、「正しくないものを一つ選べ」とあった場合には、専ら正しくないもの探しをする受験対策では、受験者にとって何の価値もない学習にしか過ぎません。

⑥ 言語能力が無ければ、受験能力は育たない

- 言語能力が無いままに受験しても、毎年の結果が表している通り、合格率は異常に低いものとなっています。これは、受験能力が育っていないことを明確に表しています。その原因は、A図の通り常識的に考えると、言語能力が無くて試験問題を解いても「意味が分からず答える」ことになり、問題文に対する理解や選択文の誤りなどを理解できず、記号選択で終わり、結果的に不合格の道を進むことになっています。それを避けるためにも、「言語能力」と「受験能力」の関係が、一体化であることを認識すべきです。そして、このことを十分認識した上で、合格能力を養うことが、「合格への道」です。

現場の声

「慣用語・日本語の言い方表現」に 受験者苦戦、指導者も苦戦・・・！

- 現場で指導する時に、「バサバサ」という言葉が何だか分からないと言われた。
受験者の質問に対して、どう対応して良いのかわからず困ったことがある。
- 受験者は、日本語の「言い方表現」や「慣用語句」の意味がよく理解できていないようだ。
それに対して、どのように理解させて良いのか現場では困っている。
そのため、月報で連載する【語彙の指導方法】には、現場教育に役立つ方法として、大いに期待している。（福岡県・F病院）

事業団テストに迫われ、 教育効果下がる！

- 同じ法人で8月からベトナムを受け入れることができた。希望していた人数よりは減ったの受け入れとなり、人気があることを実感した。
- 現在いる候補者は、日本語学習のレベルにバラツキがあった。今年から事業団が送ってくるテストが受験対策用になっていて、専門用語や知識が多くなってきた。再来年受験するにも関わらず、施設内でも事業団の進め方に応じて受験対策をやらせるようになった。
そうしたら、日本語のレベルが高かった受験者までもが、勉強についていけず苦しくなっている状態だ。
ましてや、レベルの低い受験者は到底ついていけない状態に陥っている。
- そんなに、焦って受験勉強をさせる必要も無いとは思っているのだが、2ヶ月間に1回送られてくるテストをこなさなければどうしようも無い……。本当に事業団のテストは国が定めたテストなのだろうか。（愛知県・A施設）

第1弾【質問1】

「ポタリ、ポタリ」と「ポトポト」と「ポトポト」の違いを、どのように教えますか。

月報を現場責任者と看護部で 毎回、閲覧！！

- インドネシアを最初に受け入れ、二回目も同じ国を受け入れたが、国で受け入れを決めたというよりは、候補者の人間性を重要視した受け入れをしている。
- 今度連載になった【語彙の指導法】を読んで、日本人は無意識にこのような「擬音語」とかをよく使っているんだと、改めて思った。
日本語の特徴などが月報に掲載されているので、看護部や現場の責任者が読んで閲覧できるようにしている。（神奈川県・K病院）

外国人優遇処置に不満・・・！！

- 外国人優遇の受験勉強に対して、日本人受験者が大きな不満を抱いている。日本人は口には出さないが、休日を利用して勉強や講習会にも行き、自分の休みを削って対応している。
しかし、外国人の場合は、有給で勉強している時間を与えられている。その他にも、外国人に対する優遇処置が多くあるために、日本人に対する逆差別が生じている。
- それだけ外国人優遇処置を取っているにも関わらず、合格率が低いし、合格しても帰国してしまっている状況だ。本当にこんな状態で良いのかと、つくづく思う。（神奈川県・K施設）

【対応方法】

- 多くの教育指導者は、言葉の意味を説明しようとする。しかし、全ての言葉には【規則性と用法】があることを教える事が大切だ。
- 問題の「ポタリ、ポタリ/ポトポト/ポトポト」などの言葉には、きれいな規則性が音の表し方で分かるようになっている。「ポタリ、ポタリ」と「ポトポト」は液体の落ちる速さを表すもので、「ポトポト」の方が速い。そして、「コロリ」で終わる言葉は、普通の速度を表し、「リ」を省略して語幹だけで表すものは、より速いことを表す。
さらに、濁音の「ポトポト」は速さだけでなく、液体量の重さを表し、重い感じを表す言葉と言える。
- 即ち、擬態語の規則性は、清音が普通語であり、促音「っ」を用いた言葉は、速さを表す。そして、半濁音「。」の言葉は、速さと同時に「はじける」状態を表す言葉。さらに、濁音「、」は、重さを表すことを教えるべきだ。
例) コロリ、コロリ/コロコロ/ゴロゴロ/コロッコロ

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い諸技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は、平成 24 年度国家試験で受験者数 95 名中 36 名が合格し、その 36 名中 19 名 (52.7%) がこの【到達度試験】を受けた受験者でした。 25 年度では、128 名の国家試験合格者のうち、【到達度試験】参加者は 76 名で、合格者は 68 名 (89.4%) でした。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で働く人間として必要な言語能力を養うことを重要視した学習方法です。 さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、病院や介護施設などで実践力のある要員として育成することを目的としています。 定期的試験結果を数値化し、職員に指導の仕方を考察票でお送りしておりますので、安心してご指導頂けます。 是非、ご参加下さい。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職業言語能力を養う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」(漢字 熟語)と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 (語彙力・文意力)に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生活言語能力を養う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基礎言語能力を養う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字(ひらがな・カタカナ・ 漢字)・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回	75 %	受験者の現状の日本語能力を観る。		

【国家試験受験能力到達度試験】参加のすすめ

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。

【到達度試験段階】

3段階
2段階
1段階
F段階
E段階
D段階
C段階
B段階
A段階
初回

＜合格能力育成＞

- 三段階終了時には、「日本人の専門学校卒の言語能力」を有し、国家試験問題に十二分に対応できる能力と同時に、専門知識を着実に身につければ、国家試験合格能力が十分に身につけられる。

＜受験能力育成＞

- D段階を終了すれば、日本語の基礎力と生活上に必要な言語能力が身につく、「日本人の中学校2年生と同様の言語能力」が養われる。また、会話力だけでなく、読解力と構文力も同様になる。

※ 学習段階内容と特徴は前頁の【国家試験受験能力到達度試験の特徴】を参照

＜受験能力＋合格能力育成費用＞
209,033円

@19,250円×10回＋教材(16,533円)

※ 確実に言語能力を定着させるため、再試験を行います。再試験料金は受験料に含まれます。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書

＜送付先：FAX 086-451-4244＞

施設名：

ご担当者名：

所在地：〒

電話：

FAX：

メールアドレス：

＜受験人数＞ 名

＜受験者の国籍＞ インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）

※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。

＜単発受験＞

初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3 @22,000円× 合計 円

＜継続受験＞

初回から全10回（教材費・考察指導料込み） 209,033円 × 名 合計金額 円

